

# グループ学習に関する調査報告

## Report on group learning

近畿能開大 今園 浩之

Kinki Polytechnic College Hiroyuki Imazono

E-mail: imazono@kinki-pc.ac.jp

### 1. はじめに

職業能力開発大学校において、「ものづくり工作教室」が毎年多くの小学生が参加して実施されている。当校の実習において、この企画に学生が企画から制作、ものづくり工作教室の実施までトータルでプロデュースする方法について学習させて開催し、一定の成果をあげてきた。この実習はグループ学習の一環で、卒業制作に当る開発課題実習を円滑に実施できるようにするために始めた<sup>1)</sup>。また、プレゼンテーション実践の一環で学生も発表を行った<sup>2)</sup>。

これまでの成果を実施した内容および考察した結果を報告する。

### 2. ものづくりに関する実習の実施

実習を4人1組のグループで実施し、ものづくり教室に必要な電子工作キットおよび製作テキストを作成した。これらはクラスのメンバーに製作させて、おもしろさ・わかりやすさ等を評価させた。

このような実習に対して、成果を検討するためにアンケートを実施した<sup>3)</sup>。大項目は課題発見・分析能力、計画推進力、組織力でさらに細分化された、学生が回答できる29項目について5段階の評価を行った。

### 3. アンケート結果と考察

すべての項目に関して、実施前に比べて実施後の数値は大きくなっていった。すなわち、学生は開発課題実習に向けて必要な要素を身に付けていることがわかる。

実習実施前後に比較的できるようになった項目は、「収集した情報を分析できる」、「自分の考えを相手に伝えられる」、「プレゼンテーションを実践できる」であった。一方で、「課題解決案を提案できる」、「プロジェクトの全体計画を立てられる」、「プロジェクトの進捗を調整できる」、「積極的に行動できる」が変化の小さい項目であった。

### 4. まとめ

これまでの成果を実施した内容および考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

1) プレゼンテーションの実践や自分の考えを相手に伝えられること等のコミュニケーション力に関して、自信を持つことができている。

2) 課題解決やプロジェクト全体計画等、スケールの大きなテーマは未知数の部分が多いが、理解しようと試みていた。

期間とスケールの大きさにギャップがあるものの、学生は開発課題実習に対して、手法を模索しながら実施したと考えられる。

#### 参考文献

- 1) 今園：2010年秋季第71回応用物理学会学術講演会, p.18-028, 2010
- 2) 山之口, 今園他：2013年秋季第74回応用物理学会学術講演会, p.01-027, 2013
- 3) 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター(現 基盤整備センター)：調査研究資料 No.120, 2007